

長野式臨床研究会

平成 20 年 第 10 期 マスタークラス 大阪セミナー Q & A
第 1 回 20 年 1 月 27 日 テーマ「膀胱炎」 講師 長野康司

膀胱炎 治療上の注意点、まとめ

- * まず、所見が大事です、所見は観察です。
所見の中に治すヒントがある、これで 7 ~ 8 割決まります。
- * 膀胱炎に多く出る反応（所見）
 - 1) 火穴診「魚際」(肺経)「行間」(肝経)「崑崙」(膀胱経)
 - 2) 「中極」(膀胱経の募穴)「大赫」(中極の横にあり、反応も出る)
 - 3) 痛みを訴えるものは、「緊脈、数脈」を現わし易い
 - 4) 扁桃の反応「右天枢」「天牖」等(慢性扁桃炎の二次感染症)
 - 5) 自律神経の異常も確認
- * 膀胱炎基本処置
 - 1) 「蠡溝」多壯灸(31 壯)(これはずしては効果がない、必須)
 - 2) 「中極」皮内鍼(膀胱経の募穴)(必須)
 - 3) 「照海」or「太谿」or「築瀆」or「復溜」「天牖」「手三里」刺鍼と施灸(扁桃処置として重要)
 - 4) 「副腎処置」(更年期等にも現れやすい内分泌、自律神経のバランスをとるため)
 - 5) 「気水穴処置」に刺鍼と施灸(主に膀胱経、肝経、肺経に反応が出やすい)
- * 抗生物質は長期間飲まない(3 ~ 4 日まで)。
体の耐性ができてくる結果、抗生物質が毒になり、扁桃の弱体化を招く。
- * 慢性気管支炎の処置
「大椎周囲 4 点」(第 7 頸椎を挟んで上下左右)に刺鍼及び施灸。
- * 膀胱炎の背景にある扁桃を治すことが大事である。
- * 細菌性の膀胱炎は、基本的には鍼灸対象外である。
しかし、副腎処置の消炎作用が、炎症を抑える働きがある(ステロイドホルモンの作用)ので、症例のように効果がある場合もある。
- * 膀胱炎による「灼熱痛」がある場合、「緊、数」を現す。
「交感神経緊張状態」の脈状ではなく、「痛みの脈」と考える方がよい。
- * 急性の膀胱炎、尿道炎には、特に「気水穴処置」がよく効く。
- * 他に「気水穴処置」がよく効く疾患として、「ヘルペス」がある。
罹患部に関与する陽経の経絡とその循経(陽明、少陽、太陽)の気水穴に直灸。
上下の関係で、必ず両方に施灸しなければならない。
- * 「リウマチ」には、「副腎処置」が必須。

「副腎処置」は、抗炎症、抗アレルギー作用がある。

「リウマチ」は「心実」にあたるので、「腎」の働きで「心実」を抑える、これは、「心」は「火」、「腎」は「水」、つまり「水剋火」にあたるためである。

- * 「陽陵泉」は、関節及び筋肉の熱をとる特効穴である。「リウマチ」の場合、両側使う。
- * 変形までいっていないリウマチは治りやすい。
悪性、変形以外は、長野式で十分効果がある。
- * 「ステロイド」は、長期に亘って使用すると、「骨粗鬆」「動脈硬化」「血糖値上昇」etcに繋がるので、注意が必要。
- * 「弦脉」は、「緊脉」より重い、中枢（神経的なもの）からきている。
- * 心と体は、一体のようで一体ではない。
思いが先行して体がついてこない、つまり、気持ちが先に行きすぎて、体が悲鳴をあげている状態。
〔心と体は別のもの〕として捉えなければならない。
- * 「脉」「腹」の変化がある人は、治療して早期に改善されてくる。
- * 「胃の気3点処置」は、右からやっても、左からやっても良い。
- * ツボを覚えるのも大事だが、それと同じ位手技を覚える事も大事です。
- * 「帯脈」は、打てばいいものではない、通常の帯脈より後の硬いところに中心部に向かって丁寧に雀啄する。柔らかい所に打っても効かない。
- * 「凝り」は「実」、最後の仕上げとして「切皮瀉」(例 肩上部のコリ等)。
- * 各症状は、所見に現れているので、これが変化して症状が変わってくる、これを会得してもらいたい。

質問

質問 01 やや虚の脉とは？

脉全体が虚して、中脉（胃の気の脉）の弱さを現わして、血行が悪い脉。

質問 02 副腎処置は、総ての炎症に効果があるのでしょうか？

総てではありませんが、効果はあります。

質問 03 「照海・兪府」が基本となっていますが、「復溜」でもよいのでしょうか？

「復溜」でも、「築瀆」「太谿」でもいいです、「照海」でなければならぬということではありません。

質問 04 「食生活の偏重と病原巣といえる扁桃の衛生管理がなおざり」とありますが、どのような意味でしょうか？

慢性扁桃炎の自覚が本人に無く、食事の偏りによる肥満で自己管理ができていなかった、そういう意味で健康管理ができていなかった。

質問 05 患者さんに「膀胱炎」の施灸をしてもらう場合、治療したツボ総てにやってもらうのでしょうか？

一番重要なのは「蠡溝」の灸、あとは扁桃処置のツボになります。基本的に7壮、多壯灸の場合は15壮、21壮、31壮と奇数です。

質問 06 施灸を我慢している場合は、灸点紙やせんねん灸等に変えてもいいのでしょうか？

直灸が一番効きますが、やれない場合は「灸点紙」を使ってもいいです。せんねん灸はあまり効果が無いようです。今はお灸を嫌う人が多いので、症例の中でも、灸点紙を使っている場合もあります。

質問 07 「蠡溝」の施灸の代わりに「皮内鍼」でも効果はありますか？

「蠡溝」は施灸が効果がありますが、皮内鍼は「中極」が効果があります。どうしてもダメな場合は皮内鍼でも構いません。

質問 08 症例の中で、「照海、兪府、蠡溝」等に留鍼している場合がありますが、留鍼した方が効果があるのでしょうか？

年齢的に更年期の時期で、副腎皮質ホルモンの分泌促進の為に留鍼だが、60歳以上であれば「気水穴」を使ったと思われる。

質問 09 リウマチで西洋医学をあれこれやった後で鍼灸に来た場合は良いが、西洋医学と併用して治療にみえる場合、ステロイドをやめろと言いますが？

鍼灸のみの治療が理想ですが、結構併用している場合もあります。この場合、ステロイドを急にやめて切り替えると、体がビックリするので、西洋医学を併用しながら治療していき、だんだん減らしていくほうがよいでしょう。患者自身で判ってくるので、患者さん自身の意思に任せた方がよいでしょう。

質問 10 「天牖」に切皮瀉をやってもよいのでしょうか？

この場合は、雀啄補鍼です。

質問 11 「内ネーブル」の皮内鍼の深さは？

1ミリ位でいいですよ。

質問 12 「内ネーブル」は何故「花粉症」に効くのですか？

「臍」は「脾」、津液を司る。アレルギーは粘膜上でおきる反応なので、この津液で流す働きがあると考えられます。